

# 平成26年度第2回 墨田区地域自立支援協議会 議事要旨

日 時 平成26年11月20日(木) 午前10時～11時30分  
場 所 すみだりバーサイドホール会議室(区役所1階)

## 1 開 会

## 2 議 題

- (1) 地域自立支援協議会専門部会の報告について
- (2) 「墨田区障害福祉計画【第4期】」(素案)の検討について
- (3) 障害者福祉施策に関する情報提供  
(平成26年11月4日 障害保健福祉関係主管課長会 会議資料から)

## 3 閉 会

### (資 料)

議題(1) 地域自立支援協議会専門部会の報告について

資料6 地域自立支援協議会専門部会報告資料

議題(2) 「墨田区障害福祉計画【第4期】」(素案)の検討について

ア 第4期墨田区障害者行動計画(後期)・墨田区障害福祉計画【第4期】(素案)(概要)

第4期墨田区障害者行動計画(後期)・墨田区障害福祉計画【第4期】(素案)

イ 資料1 日中活動系サービスの現状と今後の卒後ニーズ

資料2 グループホームの入居意向

資料3 障害児・者の地域生活支援の推進のための多機能拠点構想

資料4 地域生活支援拠点等の整備について

資料5 計画相談支援・障害児相談支援の推進等について

資料6 地域自立支援協議会専門部会の報告について

墨田区地域自立支援協議会委員

氏名	所属	出欠
柳田 正明	墨田区障害者審査会委員・ 山梨県立大学	出席
吉野 洋子	特定非営利活動法人 のぞみ	出席
池田 君子	社会福祉法人 墨田区社会福祉事業団	出席
小野坂 明夫	社会福祉法人 墨田さんさん会	出席
河野 元毅	特定非営利法人 とらいあんぐる	出席
渡辺 出	墨田区 福祉保健部 障害者福祉課 すみだ就労支援総合センター	出席
柳 牧子	社会福祉法人 おいてけ堀協会	欠席
柴崎 悠輔	株式会社 ラックコーポレーション	出席
柳瀬 一正	東京都立墨東病院	出席
中武 繁明	墨田区障害者団体連合会	出席
庄司 道子	墨田区手をつなぐ親の会	出席
菊池 昌子	肢体不自由児者父母の会	出席
三浦 八重子	墨田区精神障害者家族会	出席
小板橋 一之	墨田区 福祉保健部 障害者福祉課	出席
岸川 紀子	墨田区 福祉保健部 保健計画課	出席
伊丹 聡	都立墨東特別支援学校	出席
安武 正太郎	都立墨田特別支援学校	出席
鎌形 由美子	墨田区民生委員協議会	出席
持田 和彦	墨田公共職業安定所	出席
深野 紀幸	社会福祉協議会	出席

会長 副会長

事務局 出席

## 1 開 会

障害者福祉課長 ~挨拶~ 省略

## 2 議題

鎌形会長 ~挨拶~ 省略

### ( 1 ) 地域自立支援協議会専門部会の報告について

( 事務局 ) 計画策定部会について 省略 資料6を参照

卒後対策部会について 特別支援学校の卒業予定者を対象として、学校、保護者と卒業後の進路等を検討している。今年度は、3回の会議を開催し、今後の予定としては、12月に学校側と会議を開催し、1月には、保護者を含めた会議を開催して進路等を決定する。

### ( 2 ) 「墨田区障害福祉計画【第4期】」(素案)の検討について

( 小板橋課長 ) 計画(素案)及び概要について説明

省略

( 事務局 ) 資料1~5 説明

( A 委員 ) 資料2(3)表で、グループホームに入居を希望している人の親の状況について、どのように整理して記載しているのか。

( 事務局 ) 縦軸にある年齢は、調査時点の年齢を記載している。グループホームの入居希望時期を、3年以内、6年以内でわけているが、6年以内には3年以内を希望している方を含んだ数字になっている。

( B 委員 ) 資料2の8(2)の無回答27名は、グループホーム入居希望時期についてどのように考えているのか？

( 事務局 ) 希望時期が未定の場合もあるが、自由回答欄にご意見をいただいているものもある。できる限り自宅で過ごしたいという意向もある。

( C 委員 ) 今回のアンケートについて、区内に重度障害に対応するグループホームがないため、今すぐ希望するとは書けない、といったこともある。また、親が現在70歳未満の方でも、今後年齢を重ねていくことで、身体的な理由によるグループホーム入居希望者はさらに増えるだろう。

( A 委員 ) 本計画について、各事業の見込の数値は、現在の達成、未達成の状況を検証した上で設定したものと考えてよいか。

( 事務局 ) 事業ごとに検証している。多くの事業では、提供体制が整っていると考えている。なお、短期入所は見込み量を下回っているが、これは体制が未整備のためである。

( D 委員 ) 3 ( 1 ) グループホームの確保方策の箇所、区外49事業所とはどういうことか。区内転居希望者がいれば反映させるべきではないか。

また、グループホームには、永住型だけでなく、通過型もあるので入退所の数値にそのようなことも加味したほうがよい。ショートスティなども加えるとよい。

(事務局) 現在、49の区外のグループホームを利用しているが、一つは近隣区のグループホームを利用している群と、もう一つは、地方のグループホームを利用している群である。近隣区のグループホームについては、東京都の特徴と言え、区の限られた面積から考えると、近隣区のグループホームを利用するというケースは相当ある。一方の地方のグループホームについては、区内に入所施設が少ないため、全国の入所施設に入所し、その入所施設を運営する法人がグループホームを整備し、移行したケースが代表的である。入所していた方の中には、現在の入所施設のほうがよいという意見もある。区内転居の希望の有無については、区の担当者が区分認定調査等で個別に対応する際、確認していきたい。

(小板橋課長) グループホームについて、区内や近隣の施設に空きがある場合でも、そのとき区民の入所希望者がいない等の理由で入所時期が合わない場合もある。地域生活支援拠点を検討する際、グループホーム等について検討したい。グループホームの永住型、通過型、ショートステイ等について、今回の計画の数値に盛り込むことは難しいかもしれないが、今後考慮していきたい。

(E委員) グループホームは、24時間対応が必要であり、人手が不足している。看護師は、医師など常駐しておらず、責任が重くなる障害者施設に就職することに対して、消極的である。また、国の看護師に対する高齢向け事業の優遇策などもあり、障害者分野での人材確保は難しくなることが想定される。区においても、退職した看護師等の人材の掘り起しなども検討してほしい。

(小板橋課長) 重度障害者向けのグループホーム整備の支援について、事業を担ってもらう事業者の問題など、本協議会全体会もしくは専門部会において検討していきたいと考えている。

(F委員) グループホームのサービス提供水準も様々であり、医療サポート、食事提供、夜間の人員配置などでサービスのばらつきがある。そのため、サービス水準を定める必要がある。

また、アンケートを記入してもらう際、知的障害がある中軽度の方は、客観的にグループホームが適切ではないかと思う場合も、本人は一人で暮らすと回答してしまいがちな点も考慮する必要がある。

(G委員) 計画相談について、対象の方の誕生日月ごとに更新作業をしているが、人件費等の費用は持ち出しの状況である。当該事業の運営支援をしてもらえないか。

(小板橋課長) 区単独での支援は難しい。国でもこの問題は認識している。今後も区側からも改善の働きかけをしていきたい。

### (3)資料5 計画相談支援・障害児相談支援の推進等について

(事務局) 説明 省略

(D委員) 墨東病院において、小児等在宅医療拠点事業地域コーディネーター会議を開催するので希望があれば出席してほしい。

(A委員) 精神障害分野のデータが抜けてしまっているのではないか。

高齢者の退院促進に係る介護保険との関連性もある。精神分野で、病院内グループホームの検討の動きもあるため、6年間の計画期間となる障害者行動計画で考慮が必要。あわせて、障害者差別解消法を盛り込み対応していくことが必要。社会福祉協議会とのつながりも大切。例えば、障害者差別解消法であれば、福祉教育において、障害当事者の方と共に実施することが推奨されている。

数値目標を達成するための方策の裏付けについても、本協議会で検討が必要であると考えている。

専門部会の結果について発表があったが、全体会としての意見をどうするか検討が必要だと思われる。

(小坂橋課長) ご指摘いただいた点については、計画に直接盛り込むということは難しいと考えるが、お話いただいたような内容について本協議会で議論を深めていきたいと考えている。

(鎌形会長) 意見、質問がなければ、これで本日の議事を終了させていただく。

(小坂橋課長) どうもありがとうございました。それでは、閉会とさせていただきます。